

福島退職公務員連盟 会報

発行日 令和5年(2023年)10月20日
 発行者 室井 勝
 発行所 福島県退職公務員連盟
 〒960-8043 福島市中町5-21(消防会館)
 TEL・FAX 024(522)0612
 URL <https://fukushima-taikouren.com>

今年度の夏季要望活動実施 —我々の要望を本県選出国會議員へ—

日本退職公務員連盟は、日公連新聞で既報のとおり、鴨下会長が3月に「諸物価高騰に関する緊急要望」を松本剛志総務大臣に、5月には今年度の要望を加藤勝信厚生労働大臣に実施しております。

なお、要望事項については、日公連新聞4月号に掲載されております。

福島県退職公務員連盟としては本県選出の国会議員に対して、下記のように各支部において各議員の地元事務所等を訪れ、夏季要望活動を実施しました。

福島支部では8月23日に齋藤文和支部長と川崎康宏事務局長が亀岡偉民衆議院議員・金子恵美衆議院議員の事務所を訪問し、亀岡議員には本人に、金子議員のところでは秘書に要望しました。

郡山支部では8月21日に富永孝夫支部長と吾妻伸介年金部長・小林伸行事務局長が星北斗参議院議員の事務所を訪問し、直接本人に要望し、23日には根本匠衆議院議員の事務所と馬場雄基衆議院議員の事務所を訪問し、それぞれ秘書に要望しました。

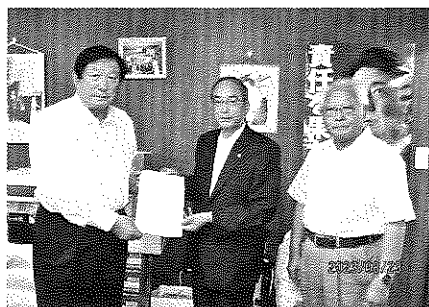
また、岩瀬支部では8月7日に佐々木光治支部長と安藤勇司事務局長が玄葉光一郎衆議院議員の事務所を訪問し、直接本人に要望しました。

白河支部では佐藤正弘支部長と石川政彦事務局長が上杉謙太郎衆議院議員の事務所を訪問し、直接本人に要望しました。

会津連絡協議会では協議会長成田正良北会津支部長をはじめ矢部有一耶麻支部長、伊藤正憲西会津支部長、佐藤孝信会津坂下支部長、山口健大沼支部長、星文人南会津支部長、協議会の庶務担当・会計担当の計8名で8月24日に菅家一郎衆議院議員、小熊慎司衆議院議員の事務所を訪問し、菅家議員には秘書に、小熊議員には27日に再訪し、直接本人に要望しました。

いわき支部では8月18日に草野義教支部長と団野勝一事務局長が吉野正芳衆議院議員・森まさこ参議院議員の事務所を訪問し、それぞれ秘書に要望しました。

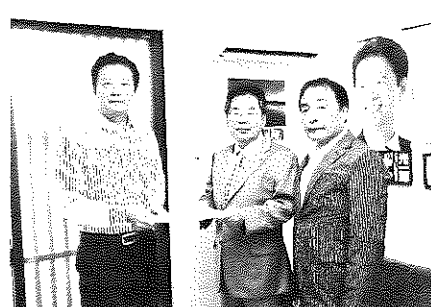
なお、10月25日には東京で開催される日公連全国大会の前日に室井会長をはじめ関係支部長等が国会議員会館を訪問し、本県選出の議員に対して再度直接要望活動を実施することとしております。



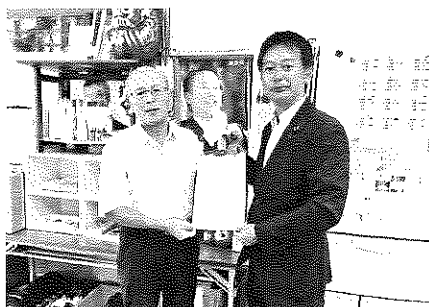
亀岡偉民議員に要望



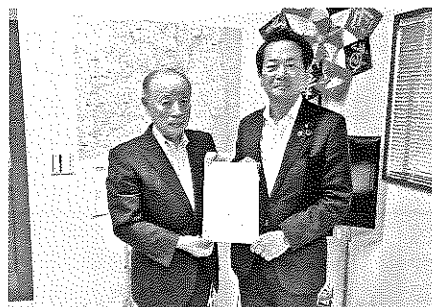
星北斗議員に要望



玄葉光一郎議員に要望



上杉謙太郎議員に要望



小熊慎司議員に要望

各支部での要望活動状況はホームページに掲出してあります。
 ホームページには「福島県退職公務員連盟」で検索のうえアクセス願います。

令和5年度 会員 構成 表

令和5年8月31日現在 福島県退職公務員連盟

支部名	令和5年度会員数		職 種 別 会 員 数										4年度 会員数	対前年度増減		新入会員		准会員 賛助会員			
	総数	男	女	教職	県職	市町村	警察	消防	郵政	農林	国公	その他		人数	%	計	男		女		
伊 達	211	148	63	186	20	4	1								227	-16	-7.0	4	4	0	273
福 島	872	665	207	471	327	2	72								919	-47	-5.1	37	31	6	885
安 達	258	147	111	250	6		2								279	-21	-7.5	8	6	2	538
郡 山	498	353	145	445	27	14	11				1				529	-31	-5.9	11	8	3	1,223
岩 瀬	163	111	52	159	1	2	1								175	-12	-6.9	6	5	1	635
田村地区	14	12	2	12		1			1						14	0	0.0	0	0	0	0
石 川	129	81	48	128	1										134	-5	-3.7	6	5	1	211
白 河	248	143	105	238	4	4		2							268	-20	-7.5	4	2	2	677
東 白 川	92	70	22	85	3		3				1				91	1	1.1	3	3	0	139
北 会 津	505	312	193	474	12		13					6			538	-33	-6.1	17	15	2	768
耶 麻	129	83	46	121	3	4	1								132	-3	-2.3	0	0	0	410
西 会 津	88	56	32	33	2	46	3	4							92	-4	-4.3	3	3	0	80
会津坂下	86	51	35	48	6	31					1				99	-13	-13.1	1	1	0	252
大 沼	128	61	67	128											138	-10	-7.2	0	0	0	99
南 会 津	128	79	49	114	7	3	2		2						138	-10	-7.2	2	1	1	180
い わ き	633	361	272	573	16	12	23				1	8			690	-57	-8.3	9	7	2	1,323
双 葉	151	96	55	149	1		1								157	-6	-3.8	3	2	1	0
相 馬	192	149	43	186	5	1									204	-12	-5.9	11	6	5	568
合 計	4,525	2,978	1,547	3,800	441	124	133	6	3	1	3	14			4,824	-299	-6.2	125	99	26	8,261
前年度数	4,824	3,134	1,690	4,047	455	139	150	5	3	2	4	19			5,086	-262	-5.2	119	90	29	8,264
(増減数)	-299	-156	-143	-247	-14	-15	-17	1	0	-1	-1	-5			-262			6	9	-3	-3

今年度の会員数調査の結果は、4,525名で減少数が299名となり6.2%（前年度5.2%）の減少率となりました。これは、昨年度調査時の減少数262名より減少数が多く
 なりました。新型コロナウイルスの関係で新入会員の勧誘がままならず、会員数の多い支部での減少数が大きかったことなどによるものです。
 このようなかで、新入会員数は125名で昨年の119名より6名増加し、物故会員は212名（前年度212名）、退会員は212名（前年度171名）となりました。東白川支
 部は会員数が増加しました。
 今年度、日公連では全国大会で会員数が増加した支部、退会会員が前年度比2%未満の支部に努力賞を贈ることとしており、増加した東白川支部、退会率が2%以
 下の支部、白河支部・東白川支部・耶麻支部・大沼支部の4支部が受賞対象となりました。

ふれあい

「環境を守る」と「心をつなぐ」



福祉部では、支部の会員数が少ないため、女性部と仲良く合同で活動しています。

一つ目の活動は、社会貢献及び環境を守るということで、東白川郡内の小・中学校へ花苗を配布しています。毎年、運動会や陸上大会が終わった5月末ごろに行っています。以前は小・中学校26校に配布していましたが、現在は11校までに激減してしまいました。役割分担として、女性部がホームセンターへマリンゴールドやベゴニアなどの花苗を発注します。そして福祉部が軽トラックを運転して方部毎に各校を回ります。各校には10ポットぐらいずつ配布して、花壇やプランターに植えてもらっています。この活動は現職教職員から本会へ賛助金を頂いているので還元の意味と退公連の存在のPRも兼ねています。

二つ目の活動は、会員の心をつなぐ活動を企画し、会員参加の促進を積極的に勧めています。研修旅行や体験活動などになります。研修旅行では、

東白川支部 福祉部長 矢吹政徳

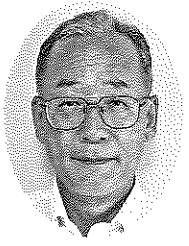
これまで白河市などの史跡・景勝の地を訪ねました。体験活動では心を落ち着ける活動「写経」に取り組みました。参加者数は13名前後でした。

環境を守る活動はコロナ禍にあっても毎年実施してきました。心をつなぐ活動は令和2年・3年は中止となりました。これからは毎年実施できると思いますので、数多くの会員に参加してもらえよう活動企画し、支部会員92名の心をつなぐことに励んでいきたいと思っています。



その“物”

組織強化対策の現状と今年度の取り組み



本支部の組織に関して、会員数減少に歯止めがかからないというのが現状です。これは他支部でも同様だと思います。8月現在、物故会員と退会会員の合計は50名、新入会員は17名です。物故会員と退会会員については、高齢化というやむを得ない事情もあり、新入会員をいかに増やすかが大きな課題となります。また、定年延長が始まり、今年度は定年退職者0です。従来の新入会員勧誘の在り方の見直しが迫られています。

そこで今年度、組織拡大の4つの柱を立てました。①地区委員と全会員による未加入者への声かけの強化 ②現職会員に退公連への理解の深化 ③定年退職者0に対応した勧誘方法の工夫 ④教職員以外の職種における退職者への働きかけ

①の地区委員による声かけは本地区の伝統として成果を上げてきました。しかし、再任用を理由に断られる、誰に声かけをすればよいかかわからない等の声も多く聞かれるようになりました。そこ

北会津支部 組織部長 兼子栄一

で、過年度退職未加入者名簿を作成して声かけに活用してもらう予定です。②は、コロナの影響で中断していた賛助会員勧誘学校訪問を再開し、管理職を通して一般の先生方に退公連への理解と関心を持ってもらうようにしました。③は、退職者数を正確に把握するために退職予定者アンケートを実施する予定です。その結果をもとに会津地方の他支部と連携した入会案内を作成して広く確実に勧誘活動を行いたいと思っています。④の取り組みは今まで不十分だったので、さしあたり今年度は、教職員以外の退職団体の長との話し合いの場を設定したいと考えています。

組織強化は組織拡大と組織充実という2つの側面があります。本支部では、今年度退公連ののぼり旗の作成や、秋のつどい(発表・作品展示会)を一般の方にも公開、支部ホームページ作成等、退公連活動の充実と広報に努めています。このような取り組みが今後の組織拡大につながっていくのではないかと期待しています。

＜年金情報コーナー＞

特別支給の老齢厚生年金は64歳から

老齢厚生年金と老齢基礎年金の支給開始年齢は65歳が基本ですが、これまで経過的に、老齢厚生年金部分が「特別支給の老齢厚生年金（報酬比例部分）」として65歳以前から支給されています。

この特別支給の老齢厚生年金は、その支給開始年齢が段階的に引き上げられており、公務員や私立学校職員の場合2022～2024年度は64歳からの支給になっています。対象となる人は1959年4月2日～1961年4月1日生。2025年度からは特別支給の制度はなくなり、65歳からの支給になります。（公務員や私立学校職員以外の場合は、女性は5年遅れのスケジュール）

要するに、現在、64歳まで公的年金がないということです。65歳過ぎの方は忘れていた制度かもしれませんが、かつては、特別支給の老齢厚生年金は60歳からの支給でした。

こうしたことを考えれば、65歳定年制など60歳以降の雇用の確保は当然に必要なことでしょう。

「日公連 東北・北海道地区協議会」開催

「日公連 東北・北海道地区協議会」が9月28日（木）に山形市で開催されました。当退公連からは室井会長と大橋事務局長が出席しました。

協議会会長の高橋宮城県退公連会長のあいさつ、日公連の小松専務理事の来賓あいさつその後協議に入り、①「65歳定年制の推進に伴い、会の運営活動や会員確保などでの課題とその取り組み」②「現行の会運営・活動上の諸課題と対応策」について各県での対応・取り組み状況をそれぞれ発表し、各県とも悩みは同じであり、コロナ後の退公連活動になりますが、危機意識を持って対応していくこととしました。

日公連小松専務から双葉支部の現状や現職参加の研修会等について質問がありました。これに対し、当県から、「双葉支部の会員は地元に戻った方は25名程度で県内や県外に避難したままであるが、支部長と福島や熊本に避難している方も新聞や会報の発送をしていること、また、支部長が短いニュースレターをこまめに作成配布し、絆を大切にしていること。福島支部や北会津支部では現職

も参加した年金研修会等を開催している。福島支部の旅行企画も会員以外の参加も認めている。」などを報告しました。

最後に室井会長から①会員勧誘は諦めない。②運営では「人」が大事であり、情熱を持って取り組んでくれる方を確保する。③退公連活動の広報が大事である。ことなどの閉会の挨拶がありました。



編集後記

例年にない暑い暑い夏でした。県内各地で、真夏日・猛暑日・熱帯夜のこれまでの最多日数の記録を更新したのではないのでしょうか。県内での最高気温が40℃にもなりました。屋外での活動はとても大変だったと思います。

ようやく秋の気配が感じられるようになり、生活も落ち着いてきましたが、コロナ、インフルエンザの感染が拡大し、安心できる状況ではありません。拡大防止に十分気を付けていきたいと思いません。

《百歳万歳》

ご長寿おめでとうございます。
百歳賀寿を受けられた方です。

〔郡山支部〕 **渡邊良才様**

大正12年9月5日生まれ

〔福島支部〕 **植田英子様**

大正12年9月23日生まれ